

株式会社ハルディン

Pick Up!

平成28年度

事業計画名

長野農場での接木ロボットの導入による
リレー生産体制の構築

概要

長野農場で接木ロボットの導入によるリレー生産体制の構築を行い、日本が目指しているオランダ型施設園芸農業の進展の後押しと、低下する営農人口問題の解決となる野菜苗の取り扱い量の拡大を行います。

分類

<対象類型> ものづくり技術
機械制御

<事業類型> 一般型

成果

当該事業を推進するためにハード面とソフト面の対応を行いました。ハード面としてはリレー生産体制を構築するために半自動接木ロボットの導入を行い、テスト運用を実施いたしました。ソフト面としては安定的な生産体制に必要な知識レベルを高めるための勉強会や運用体制の構築を行いました。

その結果、野菜苗の生産時期の拡大と安定的な生産が行える状況となりました。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社ハルディン（千葉県印西市）

接木ロボット導入で生産性大幅アップ。
製造業の発想で農業のシステム化を進める。

「リレー生産体制」が大きな特徴

農家の高齢化が進み、後継者不足から日本農業の先行きが不安視されています。その一方で、企業が大規模農業に取り組む動きも活発化しています。



種苗からポット苗を生産

ハルディンは、千葉県印西市で数百年続く農家の跡取りだった篠原茂社長がビジネスとして農業に取り組みうと1979年に設立。植物生産に製造業の発想を取り入れ、花と野菜の苗の生産を中心に農業生産のシステム化を進めてきました。



野菜苗の生産プラント

現在、印西市に4農場（合計8万3000平方メートル）を展開。第1農場は新品種の試験、新商品の開発、第2農場は野菜の播種、接木、苗作り、第3農場は挿木によるプラグ苗の生産、第4農場はポット苗の生産などを行っています。各農場で役割分担し、リレーして商品を仕上げていく「リレー生産体制」が同社の大きな特徴です。

同社が生産・販売する園芸関連と野菜の苗は、大手総合食品メーカーなど自社農園を展開する企業等の生産者向けと、全国のホームセンターなどで販売する一般向けがほぼ半々。「ハルディン」ブランドに加え、PB商品も増えています。

接ぎ木ロボットを導入

長野農場（東御市）は89年に開設。本社で生産した種苗からポット苗を生産し、98年に開設した浅間、軽井沢（夏場のみの生産）と合わせて11万平方メートルの敷地面積を誇る一大拠点です。「野菜苗を作る上で大事なものは気候差。標高差を利用しているいろいろな気候が得られる長野ならではのメリットを活かしています」と篠原社長。

同社では日本向け苗の供給を目的に展開した中国農場が中国国内向けにシフト。それを補うため、長野農場でもリレー生産体制を構築し、気温差を活かした生産可能時期の拡張と多品種少量生産を前提とした商品ラインナップの充実に取り組んでいます。

平成28年度ものづくり補助金を活用し、農業先進国オランダ製の接木ロボットを導入したのもその一環。さらに中国やベトナムからの実習生を積極的に受け入れ、研修を終えた人材が現地に帰り活躍する仕組みづくりも行っています。

「オランダは九州ほどの国土にも関わらず世界第2の農産品輸出国。農業技術は日進月歩です。日本も集約農業で生産性を上げていかないと乗り遅れてしまう。我々も人とロボットをセットにして継続的に成長していこうと考えています」



生産性アップを実現した接木ロボット



活躍するベトナム人実習生

独自の生産体制を構築し、さらにシステム化・効率化・ロボット化を進める同社。新しい日本農業のあり方が垣間見えるようです。



株式会社ハルディン

代表 代表取締役社長 篠原 茂
創業 1979（昭和54）年12月
資本金 1,000万円 従業員数 60名
本社 千葉県印西市竹袋470-4
TEL.0476-42-5858 FAX.0476-42-3114
長野農場 東御市八重原3533-692
事業内容 花・カラーリーフ・野菜苗の生産・販売

